**2020年度認定こども園自己評価結果報告書**

１．本園の教育・保育目標

|  |
| --- |
| こどもたちに力を与える保育 |
| 元気（礎の力）生きる基礎となる健全な身体を養う自立（個の力）自分で出来る、自分でやってみようという気持ちを養う自律（復の力）葛藤を乗り越え、仲間といることの喜び、手助けをしようとする優しさを養う表現（多の力）仲間や大人に向けて自分を表現するとともに、社会の中の自分を意識する |

２．2020年度の園全体のテーマ・目標

|  |
| --- |
| ゆったりとした環境の中で、個々の生活リズムを整え、心身共に健やかに育っていけるよう配慮する。発達に応じた豊かな遊びを取り入れ、生活やあそびへの意欲を育む。保育者との信頼関係の基で、基本的な生活習慣の自立の芽を育てる。豊かなあそびの中で健康な身体をつくり、言語の習得をしながら友だちに関心を持って育ちあえるように配慮する。基本的な生活習慣を身につけ、身の回りのことを自分でしようとする。様々な経験を通して、自分の思いや欲求を言葉で表現しようとする。保育者や友だちと関わりながらみんなとあそぶ楽しさを知る。様々なあそびを通して基本的な運動機能を高め元気な体をつくる。自己主張をしっかりし、友だちとの葛藤を乗り越え、互いに思いを受け止められるようになる。健康で安全な生活をする。保育者や友だちとの関わりを深め、喜んで様々な活動に取り組む。思いやりの気持ちを持ち、仲間意識を育てる。生活やあそびの中で、自分の思いを伝えたり、相手を受け入れたりしながら、友だちとの信頼関係を深める。みんなで１つの目標に向かって、活動する中で一人ひとりが表現し、年長児としての自信をつけていく。 |

３．目標・計画の達成及び取り組み状況

|  |  |
| --- | --- |
| 保育内容の共通認識 | 乳児保育:育児担当の理解一人ひとりの園児と丁寧に関わりと養護幼児教育:プロジェクトテーマ保育の理解遊びや生活、様々な体験を通しての学び |
| 保育教諭の資質向上 | 専門性を高めるための研修への積極的な参加定期的な園内研修の実施により保育と支援の理解を深め協働意識を明確にする。キャリアパスの理解と研修への参加により、意識をもち活用に繋げていく |
| 保護者への支援と連携 | 連絡ノートの活用、保育参加(オープンデー)、個人懇談、行事への参加保育内容を保護者と共有する為の説明としてドキュメンテーションの掲示を活用する。発達の記録「ポートフォリオ」を作成し、保護者に常に見てもらえる環境とした。子育てに関する相談･援助・個別の支援。 |
| 地域子育て支援 | 園庭開放（ハッピー）を活用して、未就園の保護者に向けたサポートと共有できる時間と場所の提供関係機関との連携・情報提供 |
| 健康及び安全・衛生 | 規則正しい生活習慣を身につける為の支援健康診断の実施（内科・歯科・聴力検査・視力検査）尿検査の実施（４・５歳）災害への備え　　安全計画作成堺市消防署の立会のもと、避難訓練を行う定期避難訓練・消火訓練・防犯訓練・災害訓練・交通安全教室全職員の心肺蘇生法研修の実施と心肺蘇生グッズの携行玩具・遊具の消毒感染症対策（パーティション・消毒器を設置・マスク着用・検温等） |

４．認定こども園の総合的な評価結果

平成27年度から認定こども園となり、１号認定のこどもにも等しく教育・保育の保障に努めてきた。保育参加を通して、保護者の方にも少しでも園での取り組みや保育内容を知ってもらえたかと思う。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に伴い全体計画の更新をする中で、これまでの5領域と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を日常の保育の中で意識する事に努め、プロジェクトと関連させて理解を深めることが出来るよう努めた。

園内研修に関しては滞りなく行なう事が出来た。外部への研修に関しては、キャリアパスを取り込んで職員が

選んで研修に臨むことができた。

５．今後の取り組むべき課題

|  |  |
| --- | --- |
| 保育内容の充実 | 育児担当制保育をさらに充実させ、保護者の理解を深める。プロジェクト保育を充実させ、主体的な学びを充実させる。記録と評価・反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育を目指す。ポートフォリオの充実とふり返り |
| 子育て支援の取り組み | 現状取り組んでいるこども園での場の提供を継続すると共に、未就園保護者が気軽に参加できるメニューを拡大して取り組む。 |
| 環境整備 | 老朽化した設備・建材等の補修を行う。ICTの導入後機器の見直し、さらに利便性と効率化を意識した取り組みを進める。 |
| 感染症対策 | 検温・マスク・飛沫対策消毒作業　情報発信等濃厚接触者・陽性者の対応の共有化 |